

バスケットボール戦評記入用紙

大会 (新人・春季・インターハイ・夏季)
 試合 (決勝・準決勝・決勝リーグ・5-7位決定戦・代表決定戦・その他)
 日時 1月18日 日曜日 第4試合 時刻14:30
 記入者名 祐木 毅

A チーム	得点		得点	B チーム	
昌平高校	79	()	56 西武文理高校	

戦評

第1P、出だしは両チーム共にマンツーマンディフェンスでスタートする。お互いに固さが見られシュートが決まらない。昌平は#9の3Pシュート、西武文理は#4のジャンプシュートで得点するがロスコアの立ち上がりとなる。その後もロスコアの展開となり昌平が3点リードし、第1P終了する。

第2P、昌平のオフェンスのテンポが良くなる。#5の3Pシュートを皮切りに#6のドライブインシュートで得点しリードする。対する西武文理は4分間ノーゴールの状態が続き苦しむ。昌平は速いパスさばきから#5が3Pシュート、#8がジャンプシュートを決めリードを広げる。点差を広げられたくない西武文理は#5がジャンプシュート、リバウンドシュートを決め何とか食らいつく。昌平が13点リードをして前半を終了する。

第3P、出だしから昌平のペースで試合は進む。#9のジャンプシュート、3Pシュートが決まりリードを広げる。対する西武文理は#11、#12のジャンプシュートで対抗するがシュートの確率があがらず、流れをつかめない。試合のペースは昌平で、#7のジャンプシュート、リバウンドシュートをねじ込みリードを広げる。

第4P、何とか点差を縮めたい西武文理はディフェンスを強めてボールを奪いにいき、#11、#13が3Pシュートを決めると勢いに乗る。しかし昌平も食い下がる西武文理のディフェンスを落ち着いてかわし、流れを渡さない。このピリオドは互角の戦いになるも、試合の流れは変わらず昌平が勝利した。